

Aotearoa 滞在記

理学部教授 田口幸洋

SARS にはじまり

ニュージーランドの Auckland 国際空港にようやくたどり着いたのは、日本の大学で入学式が終わり、オリエンテーションをやっているこの4月11日でした。ようやくというのは、家庭の雑事のほか、予定していた航空機会社の機内職員が SARS にかかったり、フライトサービスも少なくなったりしたため、急遽3月下旬に航空機会社の変更を行ったりと、出発前が大変あわただしかったためです。出発時から思いも寄らないことなどが起こり、これからの1年がなんとなく思いやられたスタートでしたが、大自然が美しい Aotearoa (原住民のマオリ語で長く白い雲がたなびく土地の意) への入国はスムーズに行われました。かつては、検疫官が到着機内に乗り込んできて、頭から殺虫剤をスプレーするという儀式もありましたが、この国も少しは変わってきたようです。

ここはどこ？

久しぶりの Auckland は大変な様変わりです。町並みは昔のままですが、歩く人のなんとアジア人の多いことか。大学構内も同じです。なかでも中国語が氾濫しています。Auckland は福岡市との姉妹都市で人口はほぼ同じですが、移民や留学生の目的地になっているので、約3割が外国系です。福岡市に約30万人の外国人が住んでいるということになります。そのため、特に昼食時間や午後5時過ぎに大学構内や町を歩くと、大変多くのアジア人の顔を見ることにな

るわけです。

移民や留学生が多い背景には、留学生側からすると、安全で生活費が安い(最近は少しくずれつつあるが)、正統な英語圏の国であるということが挙げられます。受け入れ側からすると、自国民の人口流出と経済的側面が挙げられます。実は、この国から毎年約4~5万人もの Kiwi (ニュージーランド人) がでていくのです。Kiwi の人口は、到着直後の4月に400万人に達しましたから、約1%の人口が毎年いなくなることになります。人口の割合でいくと、日本でなんと福岡市クラスの町が毎年消えていくようなものです。外国人が多いのは、このような人口流出による活性化の低下を補うのが背景にあるようですが、帰国前には移民規制が厳しくなり始めたようでした。また、留学生が落とすお金は、この国の貿易高の3位(肉類)と4位(園芸作物)の間にあるといわれ、留学生はこの国の経済に大いに貢献しています。

Step by Step で

私が滞在したのは Auckland 大学の地熱研究所です。Auckland 大学はニュージーランドで2番目に古い1883年創立で、ニュージーランド最大規模の大学です。ちなみに学部学生約25,000人、院生約6,800人、聴講生等約2,100人が学んでいます。大学は、町の中心部のアルバート公園に隣接しており、大変美しい便利なところにあります。借りた家は、Auckland 市街地の北東対岸の Devonport にあり、毎日フェリー



アルバート公園から大学時計台を望む

で海を渡っての通勤でした。Devonport はビクトリア調の古い町並みが良く残っており、ちょっとした観光地にもなっています。美しい Auckland でも特に美しく、静かで、最も治安がいい町でした。

さて、滞在先の研究所は3月まで所長であった Browne 準教授は地質学科長として移動しており、私の受け入れ人の Simmons 準教授が所長になっていました。御兩人とも80年代からの知り合いであったので、滞在中は気楽に地質学科にも顔を出し、学生巡検やゼミなどにも参加していましたが、代わりに教室ゼミでの発表もさせられたりしました。

Auckland 大学で滞り手続き始める際に、所長と秘書から、step by step で進めましようと言われました。まず履歴書を作成し、パスポートのコピーをつけて、大学の種々の施設の利用ができるようにとの ID 発行の願いを提出しました。待てど暮らせど発行許可が下りません。ようやく5月下旬に発行許可の通知がきました。いやはや、一步の長いこと長いこと。事は step by step で確実に前に進んでるようです。

ID カードがないと IP アドレスの申請もできませんし、時間外に建物に入るアクセスカードももらえません。これらが全て整って、日本とメールでやり取りができるようになったのは、6月に入ってからでした。日本の他の大学から

1年前に来た人も同じくらいかかったとのことですから、これが通常の手続きの早さのようです。ここは Aotearoa です。日本の観念をまず捨て去ることから始めねばなりません。

雨を！もっと雨を！

この国の2002年度の電力供給は、水力56%、天然ガス30%、地熱7%、石炭4%、その他3%と、クリーンエネルギーの占める割合が高いのが特徴で、さらに2050年までは原子力は導入しない方針も国会で議決されています。政府は2025年までの人口増加や産業界の需要による電力増大には、北島の地熱と南島の豊富な水力に期待しています。しかし、71年ぶりという大湯水となり、頼みの水力発電にも黄信号が灯り、到着直後の4月28日からついに国を挙げての総電力使用10%削減大キャンペーンが始まりました。6週間後の6月4日に目標が達成され、我が家には協力お礼にピザ1枚の券が配給されました。ピザ屋にいけば、各家庭での電力使用料が少しは減るとの事らしいですが…。日本の「雨男」も、この国では立派な「晴れ男」のようです。

何がさびしいかって…

その他いろいろなトラブルもそれなりにありましたが、充実した楽しい1年を美しい土地で過ごすことができました。帰国間際に、「日本に帰ったら何が最もさびしく思うか？」と尋ねられ、ちょっと考え込んでしまいました。帰国後の初出勤は、ごちゃごちゃした家並みの間を通り抜けての通勤です。あー！ここはアジアだ！この混沌さがアジアだと感じた次第です。なくしたものは、美しい自然環境の中での生活だったのでは。

この1年間、充実した在外研究の機会を与えていただきました福岡大学の関係各位に心からお礼申し上げます。Ka pai!